

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676600218
法人名	有限会社 やわら
事業所名	グループホーム やわら
訪問調査日	平成21年1月30日
評価確定日	平成21年2月27日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4676600218
法人名	有限会社 やわら
事業所名	グループホーム やわら
所在地	曾於市末吉町二之方5232番地8 (電話) 0986-76-3727
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年1月30日

【情報提供票より】(平成21年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年2月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	18 人 常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算 17.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	1日当たり	1,000円		

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高原病院 斎藤歯科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、協力病院や商店街に程近く、木立ちに囲まれた広い敷地に建てられている。分かりやすい介護理念のもと、地域に根ざしたホームを目指しており、比較的介護度の高い方も積極的に受け入れている。入居者と職員が役割分担をしながら、和やかで家庭的な雰囲気を醸し出すとともに、運営者及び管理者の介護への深い思いと絶えざる探求の心が、ご家族と職員の信頼関係を育んでいる。職員の教育にも熱心に取り組んでおり、今後、更なる資質の向上が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価では、6項目の改善課題が上げられており、一部を除き改善の方向を見ている。ミーティングにおいて、第三者からの指摘として受け止め検討する中で、理解を深めて改善に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はユニット毎のミーティングで話し合っており、管理者がとりまとめて作成している。話し合う中で、業務の実情に気付くことも多い。外部評価の指摘事項は、第三者による客観的な評価として、普段自分たちが気付かない部分の理解に役立っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市からの参加を得て、運営推進会議は定例化の方向で取り組まれている。また、市の呼びかけで曾於市グループホーム・小規模多機能の会が発足し、連携は大きく前進している。このような中、ご家族の要望で、市が介護学校の開催を企画するなどの成果も生んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の訪問時における面談や2ヶ月毎の運営推進会議、家族会、意見箱などを通じて意見を聞き、運営に反映するように努めている。また、面会時や電話による報告、家族会の開催、ホーム便りの発行などを通じてご家族との信頼関係が確立している。今後は、ご家族への定期的な報告について、実情に応じた更なる体制の整備が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	秋の市民祭に展示参加したり、ホームの夏祭りには地域の方々への参加を呼びかけている。また、近所の方から野菜をいただくなど、日常的に交流が進んでいる。自治会への加入について働きかけは行っているが、今のところ実現していない。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者は、開設当初から地域との連携を考え、「家族や友人、地域の皆様と気軽に交流できる環境を作ります」という理念を、職員とともに作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎朝の申し送り時に理念を唱和しており、常に理念を基本に日々の業務に臨み、入居者やご家族に接するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋の市民祭に展示参加したり、ホームの夏祭りには地域の方々の参加を呼びかけている。また、近所の方から野菜をいただくなど、日常的に交流が進んでいる。自治会への加入について働きかけは行っているが、今のところ実現していない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニット毎のミーティングで話し合っており、管理者がとりまとめて作成している。話し合う中で、業務の実情に気付くことも多い。外部評価の指摘事項は、第三者による客観的な評価として、普段自分たちが気付かない部分の理解に役立っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の開催も軌道に乗りつつあり、それぞれの立場からの意見が述べられて運営に活かされている。ご家族から出された市への要望で、介護学校の開催が実現している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の呼びかけで福祉ネットワーク、「曾於市グループホーム・小規模多機能の会」が生まれ、連携が強化されている。当面は、職員の資質向上のための研修に取り組む計画がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話、家族会(年1回開催)やホーム便りを通じて、入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、ご家族に対して個々にあわせた報告を行っている。ただし、ホーム便りを含めて、定期的な報告としてはやや不十分である。	○	ホーム便り等を活用した定期的な報告や、金銭管理におけるご家族の確認サインの徴求など、実情に応じた更なる体制の整備を検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時における面談や2ヶ月毎の運営推進会議、家族会、意見箱などを通じて意見を聞き、運営に反映するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃からユニット間の異動を行い、職員の入れ代わり際には全職員で支援する体制をとっている。実際に影響は殆ど無く、むしろ入居者が新しい職員を気遣い、声をかけ心配してくれる場面が見られる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に対する個別研修プログラムの実施や外部研修への参加、受講後の伝達講習の実施、ミーティングにおける勉強会の実施等、職員を育てる取り組みを行っている。	○	新人に対する個別研修プログラムの実施に加え、従来から在籍する職員の経験や知識、習熟度等、段階に応じた計画的な育成について検討していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者中心の交流に加え、新しく発足した「曾於市グループホーム・小規模多機能の会」を中心に、職員レベルでの定期的な交流や勉強会、相互訪問等が計画されており、更なる質の向上が期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り本人に見学していただいているが、困難な場合は、事前に自宅或いは利用中の施設を訪問して情報の把握に努め、その上で入居に至るように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「できる時はお互い助け合しましょう・・・」と呼びかけ、自立を促すことで、食事の準備や後片付け、年末の餅つきなどを入居者とともにやっている。また、全盲の入居者への気遣いなど、入居者同士もお互いに助け合い支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念にもあるように、「したいこととたくないこと」を把握するように努めている。希望を取り入れて、友人との昼食会や墓参り、孫の結婚式への出席などの支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時及び面会時に情報を得て、介護計画を作成している。職員は月1回の会議で話し合い、担当者及び管理者による「総合評価」に基づいて、気付いたことを管理者及び計画作成担当者に伝え、必要な見直しを行っている。また月1回のカンファレンスにおいて、ご家族や医療機関からも情報を得て、計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の入居者の様子をチェック表で把握するとともに、病状の変化等、必要に応じて随時カンファレンスを開催し、計画の見直しを行っている。定期的な介護計画の見直しは、6ヶ月毎に実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関や訪問看護ステーション等との連携が緊密に行われており、医療面の支援体制が充実している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の同意が得られた場合は、かかりつけ医として協力医療機関による訪問診療を受けられるように支援している。また、緊急時にはご家族へ連絡するとともに、職員が外来受診に同行して情報提供するなど、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについての指針を作成しており、殆んどのご家族が重度化した場合や終末期を迎えた場合もホームでの支援を希望している。すでに看取りも経験しており、入居時及び必要の都度説明し、最終的な方針が決まれば同意書を交わし、関係者全員が共有し対応している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送り時に入居者の情報を共有する場合など、入居一覧の順番に沿って言うことで個人名を使わないように配慮したり、失禁、失見当識の状態に対しても、職員間ではアイコンタクトやイニシャルを使って対応するなど、入居者の尊厳やプライバシーに対しては細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者はそれぞれのペースで食事の準備や後片付け、洗濯もの干し・たたみ、散歩、買物などして過ごしており、天気の良い日は職員と一緒に食材の買出しに行くこともある。一人で散歩に出かける場合も、職員はそっと見守り、タイミングをはかって声をかけるなど、入居者の気持ちに配慮した対応を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所前のカウンターやテーブルなど、思い思いの場所で食事をしている。職員と一緒にできる方は下ごしらえ、盛り付け、配膳、後片付けなどを行い、食事が楽しみなものになるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に応じて、多くの入居者が毎日入浴している。それぞれの状態に応じ、必要な場合は2人の職員が対応するなど、安全面に配慮して入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯もの干し・たたみ、散歩、買物、草取り、ゴミ捨て、犬の世話など、それぞれができることや希望にあわせて、好きなことをしながら日々暮らすことができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者、職員共々、落ち着いた雰囲気の中で過ごしている。程よい変化のある暮らしとなるように、散歩や買物に加え、外食の機会を多く設けることで、戸外で過ごす機会を増やすように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関に施錠しておらず、入居者は自由に出かけることが可能である。その際は、職員がそっと見守りついて行くなどの対応をしている。夜間は遅出の職員の退出時である19時に、門と玄関の施錠をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定を含めて、年2回の避難訓練を行っている。地震、水害の対策マニュアルも作成し、日頃から研修等を行っている。非常食、飲料水の備蓄も行っており、日頃より近隣の住民に対して災害時の協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な体重測定(月1回)と血液検査により、栄養状態を把握している。チェック表により、食事及び水分の摂取量等の管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	程よい広さの居間や食堂、カウンターキッチンなど、入居者と職員が心地よく過ごすことのできる共用空間となっている。建物には木がふんだんに使われており、広い開口部によって、明るく温もりのある家庭的な環境を作り出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や備品が持ち込まれており、落ち着いた雰囲気のある居室である。仏壇のある部屋も見られ、入居者が安心して居心地よく過ごせるように配慮されている。		